

滋賀県の地震

令和 8 年(2026 年)6 月

目 次

1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	1
(2)概況	1
(3)断面図	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	4

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	8
(2)概況	8

3 地震一口メモ

地殻変動監視に用いるひずみ計について	9
--------------------	---

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。

本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」にお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。

また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

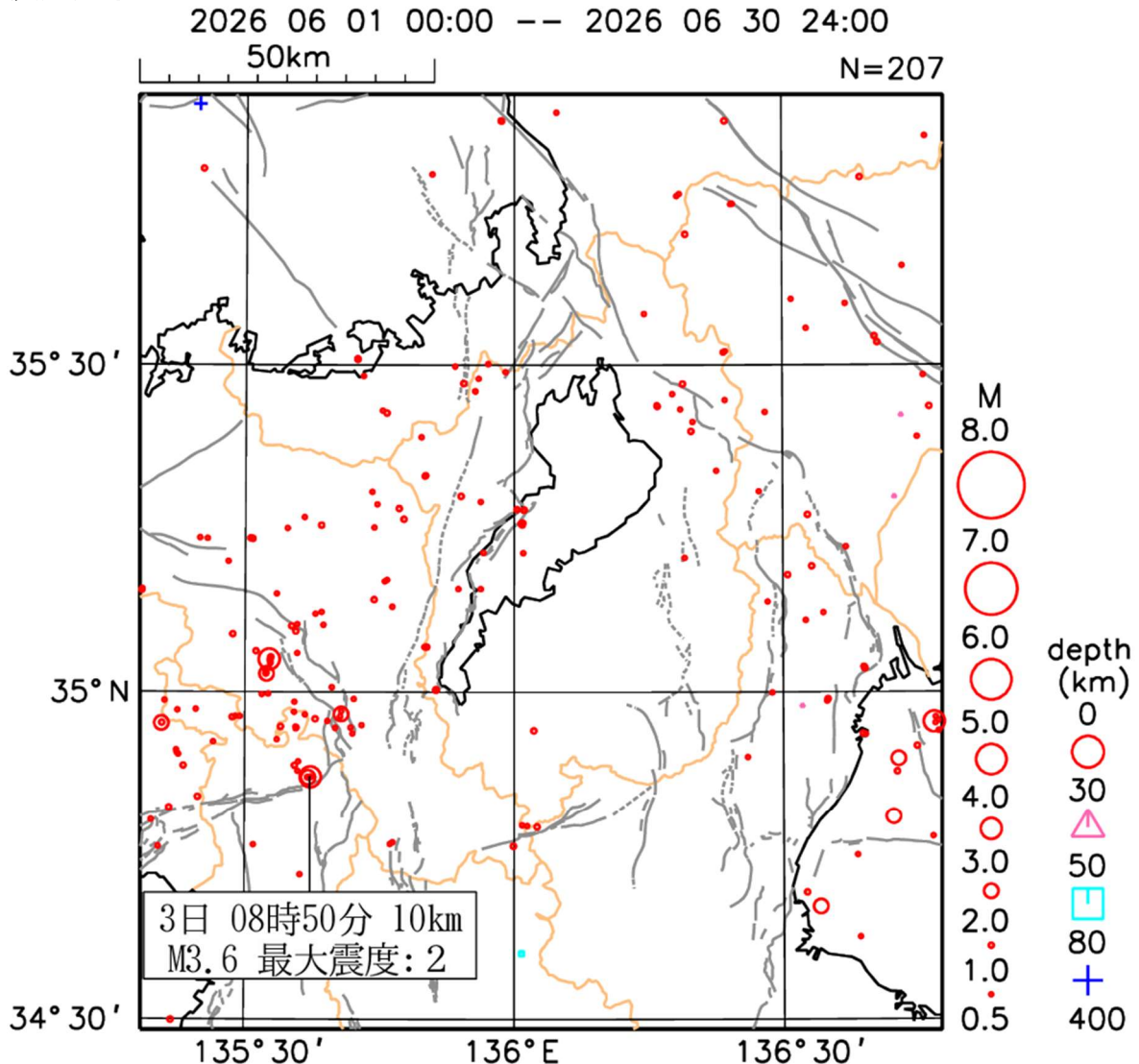
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

1 滋賀県の地震活動(令和 8 年 6 月)

(1) 震央分布図



震央分布図は、地図上に地震の震央を表示したもので、地震の活動を示すものです。

シンボルマークの位置により「緯度、経度」、大きさにより「地震の規模（マグニチュード）」、形状により「震源の深さ（km）」を表現しています。マグニチュード（M）とシンボルマークの大小、震源の深さ（depth）とシンボルマークの形状の対応は震央分布図の右側の凡例のとおりです。

図中の灰色の折線は、地震調査研究推進本部による主要な断層帯の概略位置です。線種は活断層の存在の確実度（実線部＞破線部）を表しています。

滋賀県で震度1以上を観測した地震には、日時・震源の深さ・マグニチュード・最大震度を付記しています（最大震度はその地震で観測された最も大きな震度で、滋賀県内の最大震度とは限りません）。

震央地名は経緯度の格子で区切っているため、県境付近では行政区域の境界と正確に一致しないことがあります。

(2) 概況

6月に震央分布図の範囲内におけるM2.0以上の地震は11回（前月11回）でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震は4回でした（前月2回）。

滋賀県内で震度1以上を観測した地震は、以下の通りです。

3日 08時50分 大阪府北部の地震（M3.6）：大津市、栗東市、湖南市、東近江市で震度1

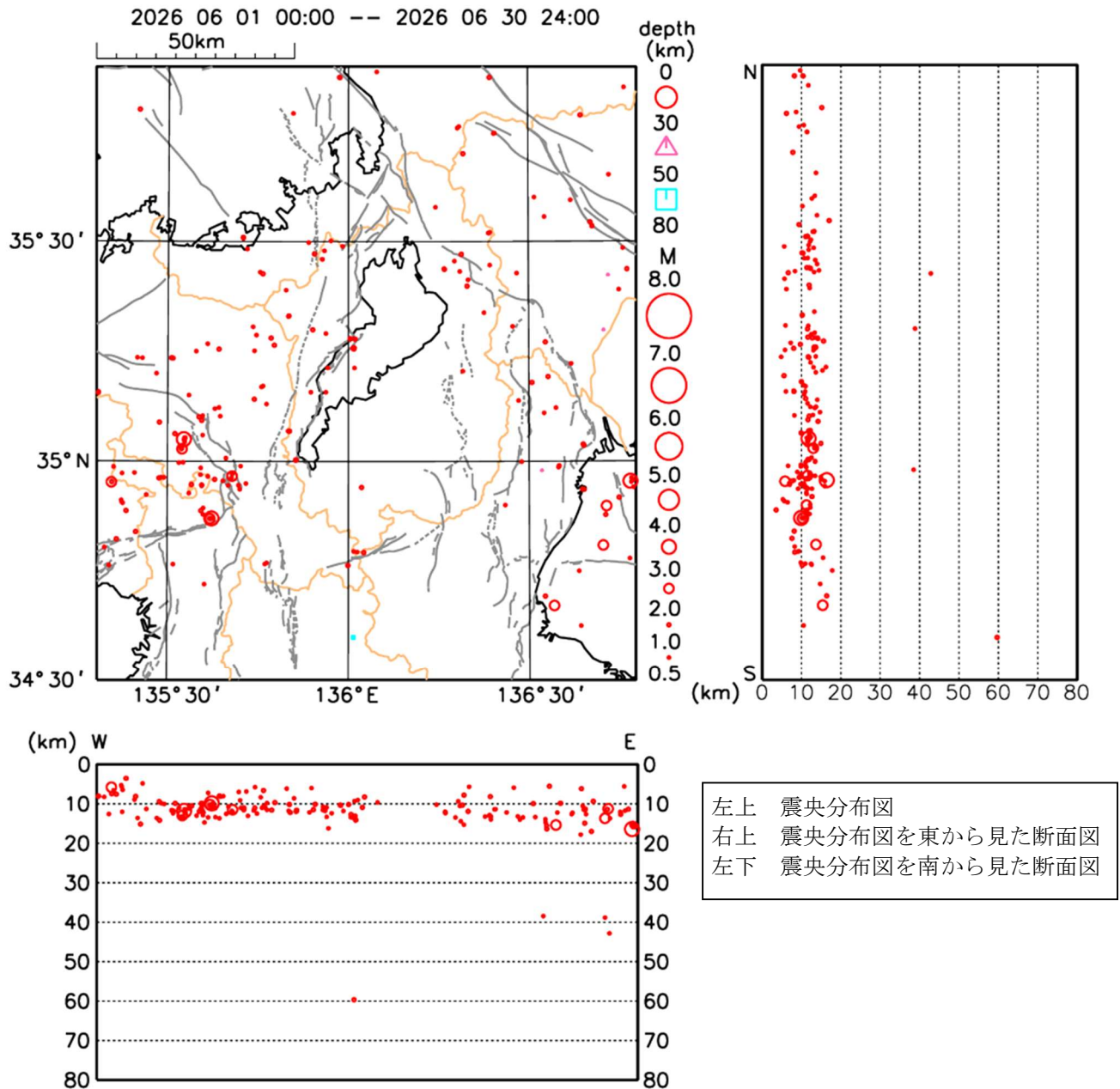
6日 10時20分 愛知県西部（図の範囲外）の地震（M4.0）：彦根市、長浜市、高島市、米原市、豊郷町、愛荘町で震度1

16日 19時46分 茨城県南部（図の範囲外）の地震（M5.5）：彦根市、近江八幡市で震度1

26日 22時28分 山梨県東部・富士五湖（図の範囲外）の地震（M5.6）：長浜市で震度2、彦根市、

米原市、大津市、近江八幡市、甲賀市で震度1

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

(4) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の表

発震日時	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度（滋賀県内のみ掲載）					

2026年06月03日08時50分	大阪府北部	34° 52.2' N	135° 37.3' E	10km	M3.6
-------------------	-------	-------------	--------------	------	------

----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 1： 大津市国分＊, 大津市南郷＊, 栗東市安養寺＊, 湖南市石部中央西庁舎＊
東近江市市子川原町＊

2026年06月06日10時20分	愛知県西部	35° 02.4' N	137° 09.0' E	40km	M4.0
-------------------	-------	-------------	--------------	------	------

----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 1： 彦根市城町, 長浜市公園町＊, 長浜市八幡東町＊, 豊郷町石畑＊, 高島市勝野＊
米原市長岡＊, 愛荘町安孫子＊

2026年06月16日19時46分	茨城県南部	36° 06.7' N	139° 52.5' E	50km	M5.5
-------------------	-------	-------------	--------------	------	------

----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 1： 彦根市城町, 近江八幡市桜宮町

2026年06月26日22時28分	山梨県東部・富士五湖	35° 33.1' N	138° 57.9' E	20km	M5.6
-------------------	------------	-------------	--------------	------	------

2026年06月26日22時30分	山梨県東部・富士五湖	35° 32.2' N	138° 57.7' E	19km	M3.2
-------------------	------------	-------------	--------------	------	------

----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 2： 長浜市難波町＊

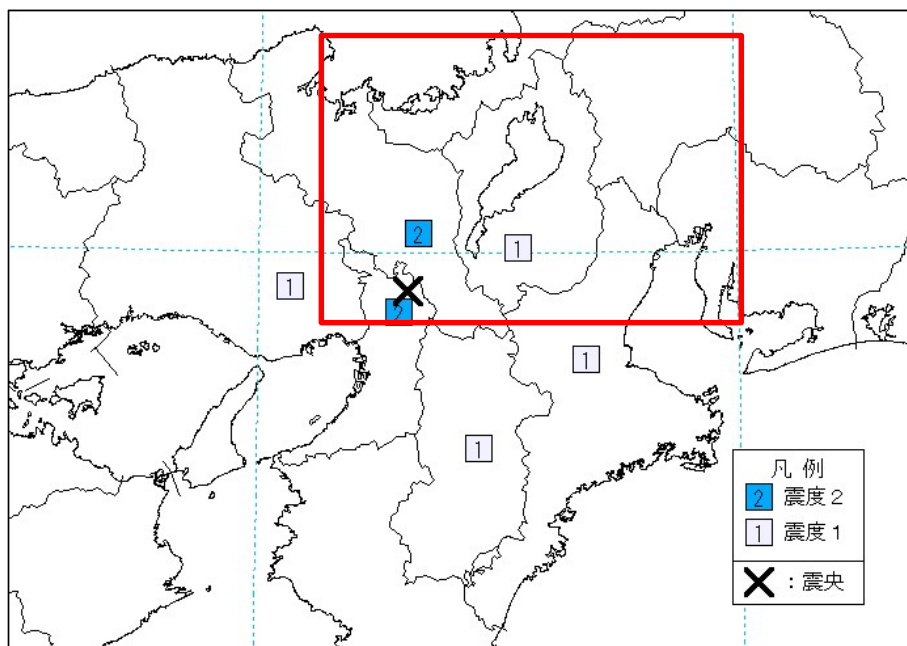
震度 1： 彦根市城町, 米原市米原＊, 大津市南小松, 近江八幡市桜宮町, 甲賀市水口町

※ 太字の地点は気象庁の震度観測点、名称の末尾に＊がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

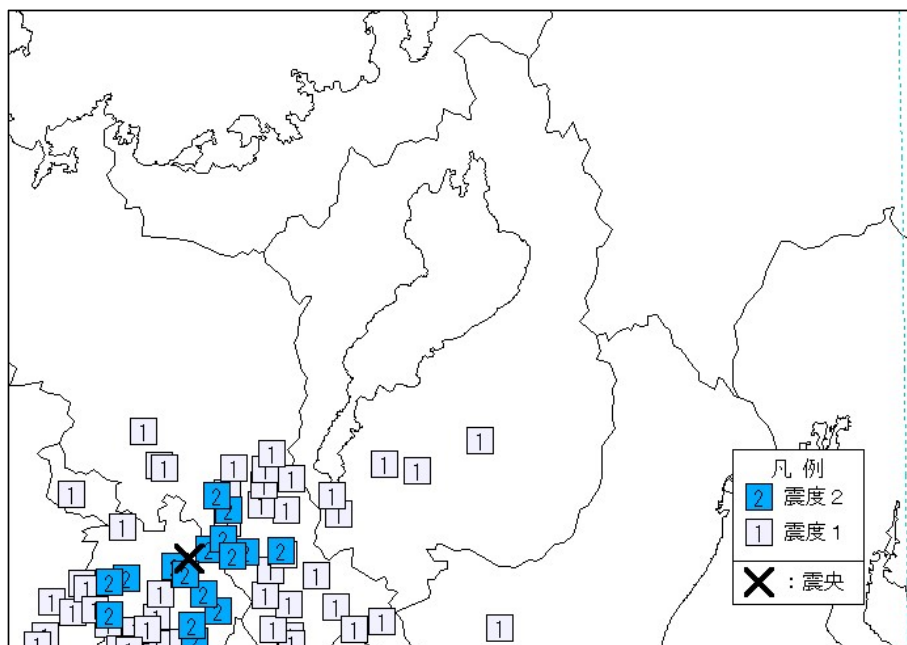
注) 6月26日の地震は、ほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないので、震源を複数記載。

(5) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図

2026年6月3日08時50分 大阪府北部 (M3.6)

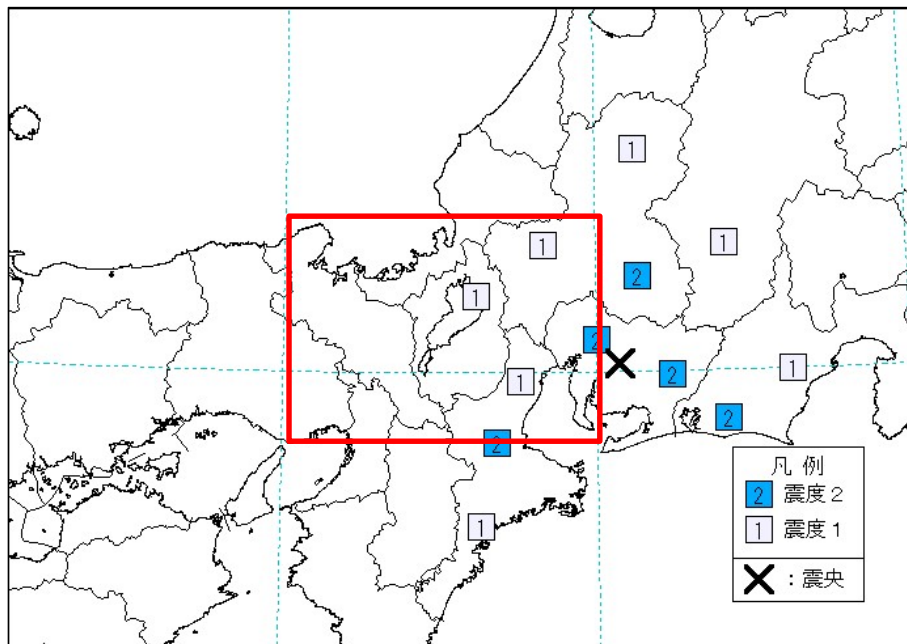


各地域の震度

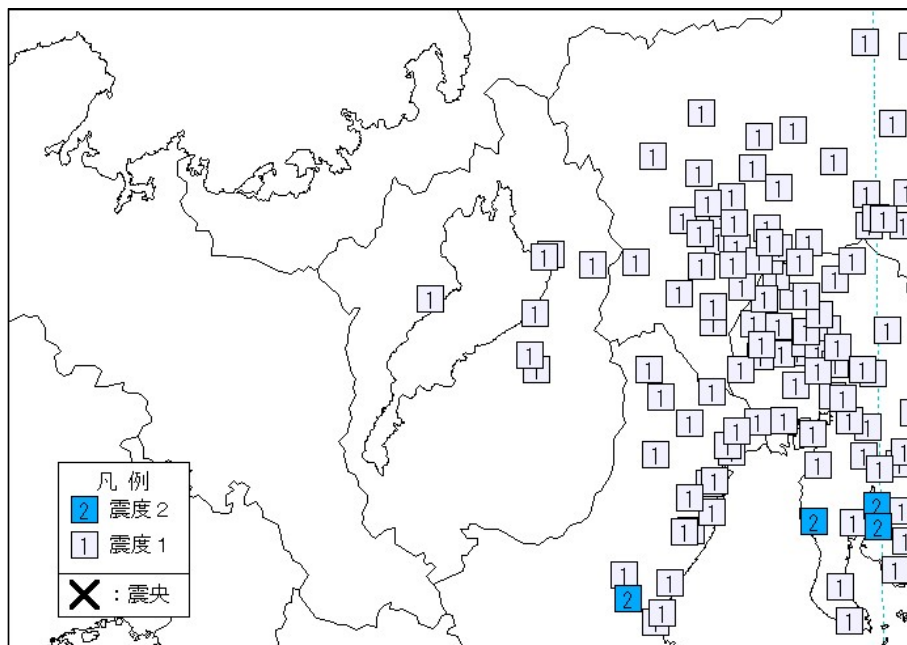


各観測点の震度（各地域の震度の赤矩形領域内）

2026年6月6日10時20分 愛知県西部 (M4.0)

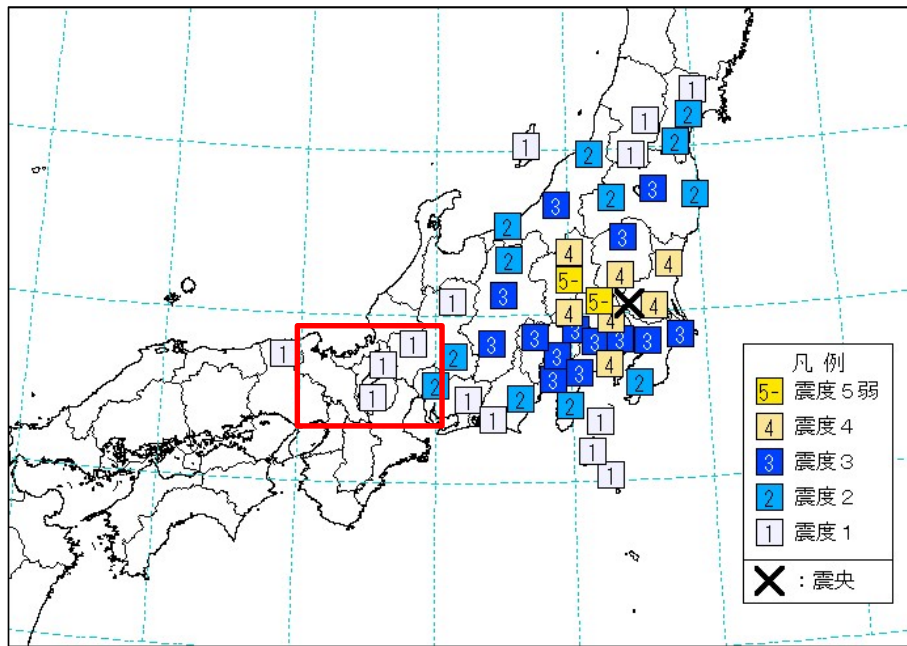


各地域の震度

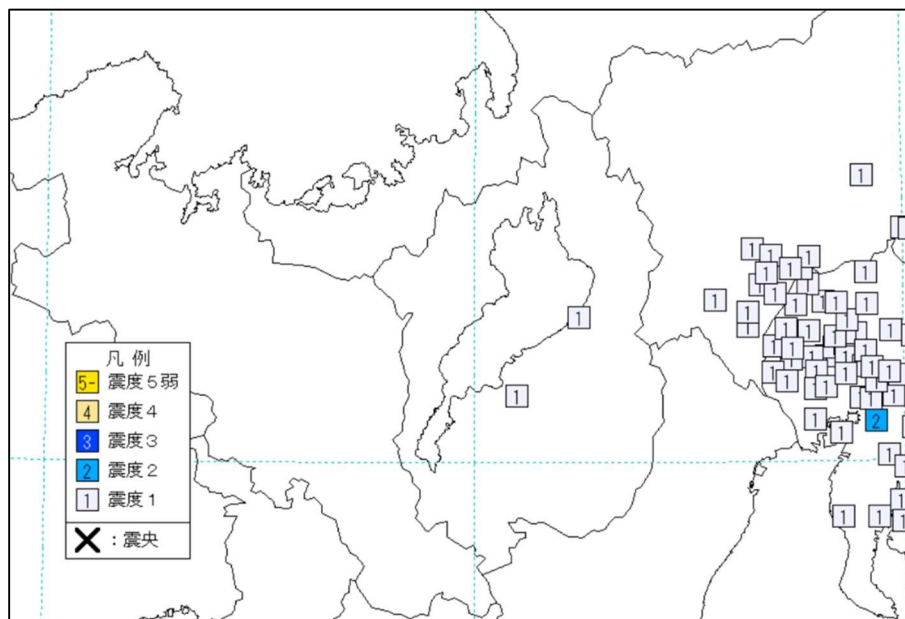


各観測点の震度（各地域の震度の赤矩形領域内）

2026年6月16日19時46分 茨城県南部 (M5.5)



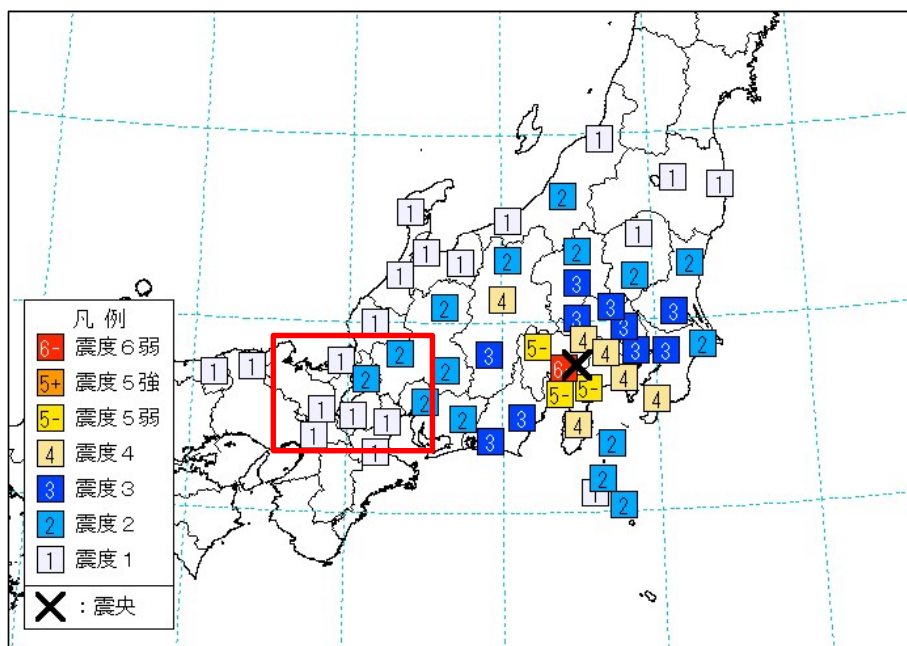
各地域の震度



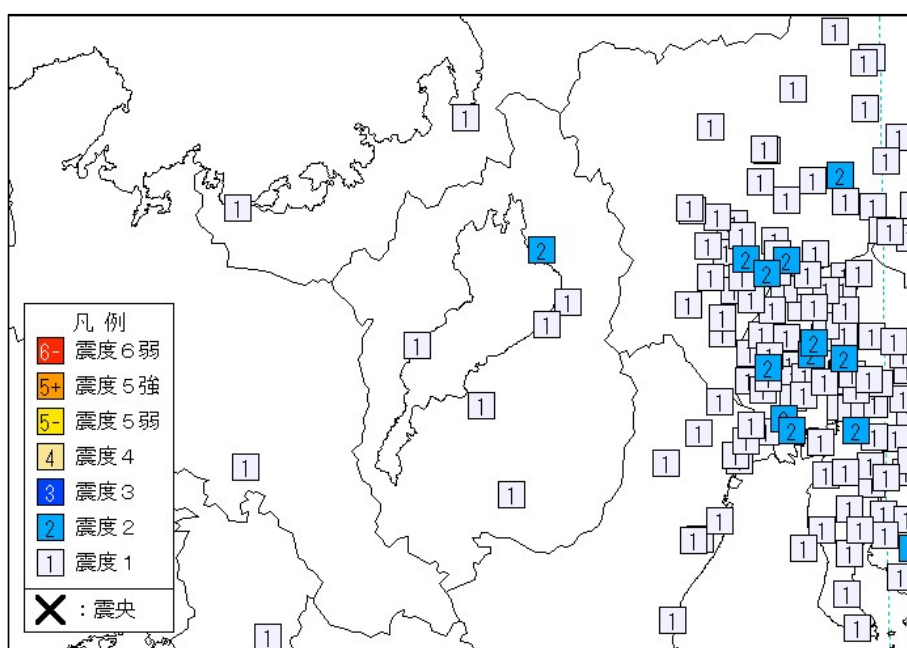
各観測点の震度（各地域の震度の赤矩形領域内）

2026年6月26日22時28分 山梨県東部・富士五湖 (M5.6)

2026年6月26日22時30分 山梨県東部・富士五湖 (M3.2)



各地域の震度

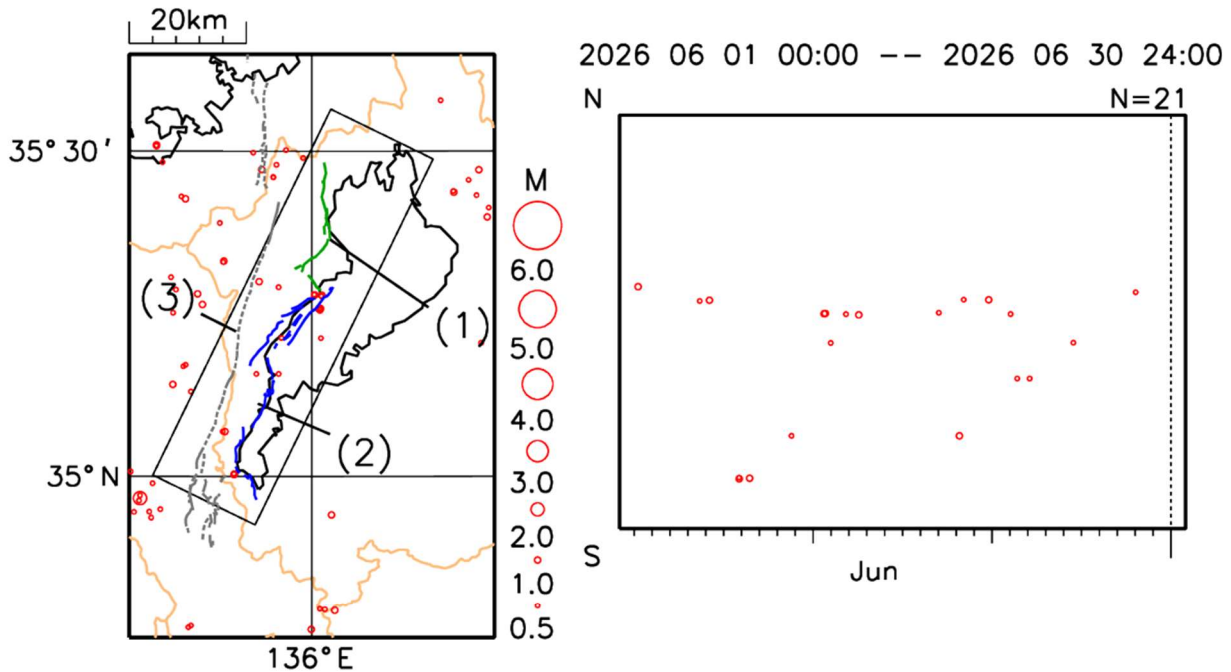


各観測点の震度（各地域の震度の赤矩形領域内）

注）ほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないので、震源を複数記載。

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和8年6月)

(1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ 30km までの地震)



(上) 震央分布図

深さ 30km 以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

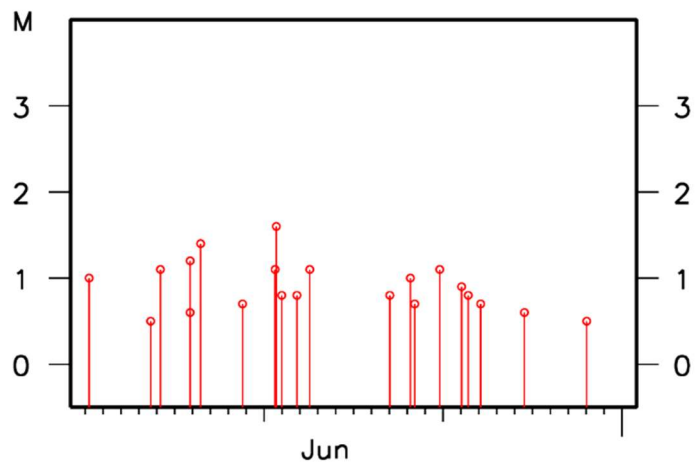
- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

(右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸(縦軸)に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

(右下) 地震活動経過図(規模別)

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。



琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市(旧マキノ町)から大津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約 59km で、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の 2 つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が 1 つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部では M7.1 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率は 1~3% と推定されます。

断層帯南部では M7.5 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ 0% と推定されます。

(地震調査研究推進本部の長期評価(2009)による。ただし、地震発生確率の算定基準日は 2026 年 1 月 1 日。)

(2) 概況

6 月に震央分布図中の矩形領域内で観測された M2.0 以上の地震は 0 回(前月 1 回)で、同領域内の地震で震度 1 以上の揺れは観測されませんでした。

3 地震一口メモ

地殻変動監視に用いるひずみ計について

ひずみ計とは、地下の岩盤の伸び・縮みを非常に高感度で観測できる地殻変動の観測装置のことです。ボアホールと呼ばれる直径15センチメートル程度の縦穴を数百メートル掘削し、その底に円筒形の検出部が埋設されています。

地下の岩盤は、周囲からの力を受けて、ごくわずかですが伸び縮みします。ひずみ計は、その検出部が岩盤と同じように変形することで、岩盤の伸び縮みを検出します。

気象庁が設置しているひずみ計には、体積ひずみ計（図1左）と多成分ひずみ計（図1右）の2種類があります。体積ひずみ計は、岩盤の伸び縮みによる検出部の体積の変化（体積ひずみ）を測定します。一方、多成分ひずみ計は、検出部の45度ずつ異なる4つの方位の直径の変化（線ひずみ）を測定します。体積ひずみ計ではひずみの大きさの変化を知ることができますが、多成分ひずみ計ではひずみの大きさに加えてその方向ごとの変化を知ることができます。

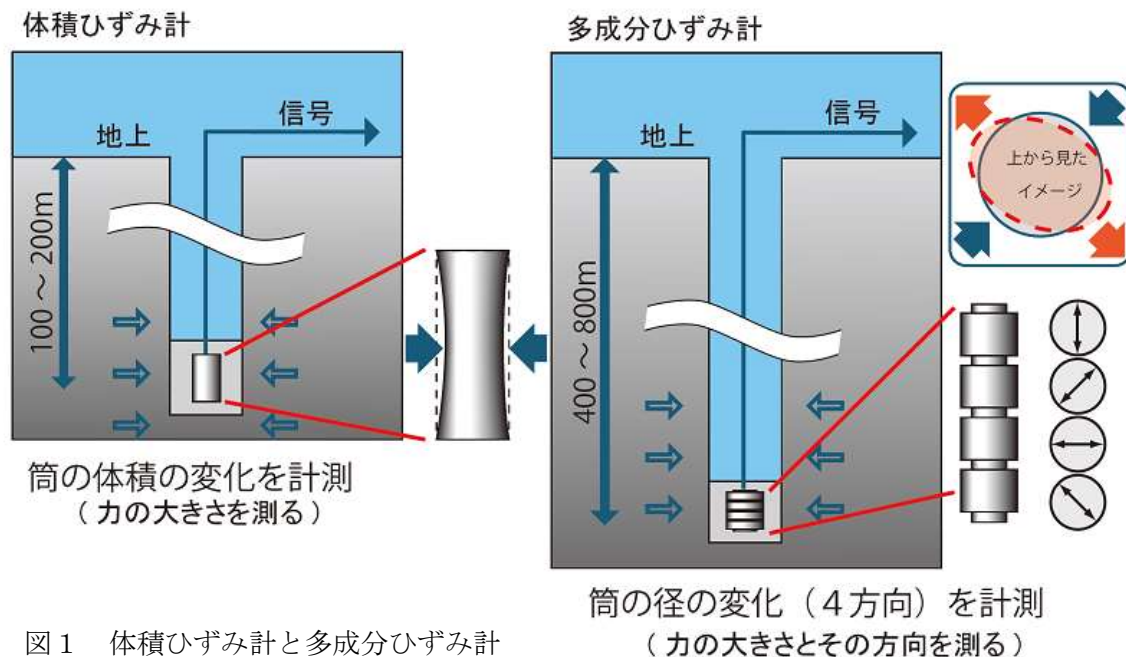


図1 体積ひずみ計と多成分ひずみ計

気象庁 HP (<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/nteq/strainmeter.html>) より

南海トラフ沿いでは、通常地震よりもはるかに遅い速度でゆっくりとプレート境界がずれ動く「ゆっくりすべり」が発生することがあり、大規模地震の発生に関連性があるものと考えられています。

気象庁ではこれまで、「ゆっくりすべり」に伴うごくわずかな岩盤の伸び縮みを捉えるため、気象庁および静岡県が東海地域に設置したひずみ計に加え、令和2年6月25日11時より、国立研究開発法人産業技術総合研究所（以下、産総研）が東海、紀伊半島、四国地方に設置した12地点のひずみ計の観測データを用いて「ゆっくりすべり」の常時監視を行ってきました（図2）。

今般、産総研が新たに和歌山県に設置した日高川和佐（ひだかがわわさ）、香川県に設置した綾川千疋（あやがわせんびき）のひずみ計の観測データを、気象庁においてリアルタイムで活用できるようになったことから、令和8年3月10日12時より、これらの観測データを活用しています。これにより、南海トラフ沿いにおける「ゆっくりすべり」の検

出能力が向上し、その発生を早期に把握できるようになっています。

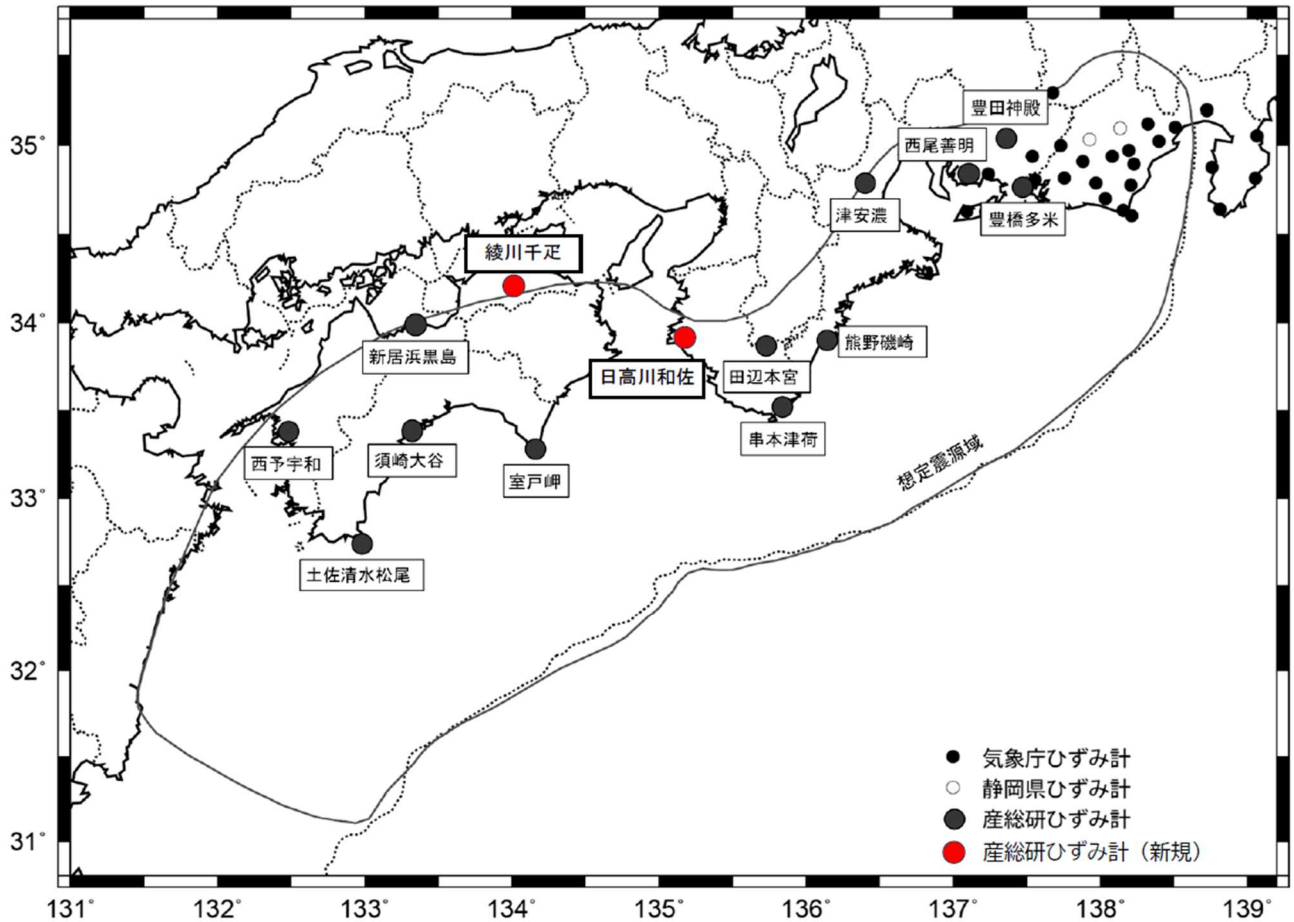


図2 南海トラフ沿いのゆっくりすべり監視に用いるひずみ計

気象庁 HP (https://www.jma.go.jp/jma/press/2603/10a/20260310_nantora_kanshi.pdf) より

気象庁HP 南海トラフ沿いにおける地殻変動監視の強化について

https://www.jma.go.jp/jma/press/2603/10a/20260310_nantora_kanshi.html

気象庁HP ひずみ計とは

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/nteq/strainmeter.html>